

商店建築

SHOTENKENCHIKU Monthly Magazine of Shop Design & Interior Design

2005 12
Vol.50 No.12

業種特集

ヘアサロン&エステ

特集

エキナカ・ショップ

レポート特集

サイン計画

エレメント特集

ファサード



「おいしいキッチンプロジェクト」展

こころ弾むかたちをつくる



1.五十嵐久枝さんデザインによるラウンドテーブルとイス。会場のパーティションは福井産の桐材と荒川レース工業の提供によるレースを組み合わせて製作されたもの。会場構成は酒井俊彦さん

2.天井のペンダントライト (D: Goma+荒川レース工業)、テーブル上のフルーツボウルとスナックボウル、キッチン上の水きりラック (D: フラスコ+山内スプリング製作所) やキッチン中央の包丁立てと自立まな板 (D: ヒロタデザインスタジオ+高村刃物製作所) などが今回発表された製品

3.パーティション。下部に収納された空気清浄機の風でカーテンが常に揺れ、パーティション内部に展示されている商品を見せる演出



福井市の地域産業創造会議により運営される企業横断的なブランドシステム「おいしいキッチンプロジェクト」の初めての展示会が東京・南青山で開かれた。

これまででも、多くのデザイナーが地場産業の復興にかかわってきたが、その多くが大きな成果を得られていない理由について、今回デザインディレクターを務めたプロダクトデザイナーの酒井俊彦さんは「デザイナーがただデザインをするだけで、きちんと売れる商品を作ってこなかったから」と話す。

「デザインだけではなく、そして機能だけでもない。きちんと商品企画してデザインすること。ここからぶれてしまうと、この企画は成立しません。福井らしさを押し出したり、デザインに凝り過ぎるのではなく、使いたくなるようなもの、そして現実的な価格帯、こうした考え方を受け入れてくれる世界観を持ったデザイナーに依頼しました」

会場で販売された商品はどれも手ごろな価格で、実用性の高いものが揃えられた。実際に展示会開催中、多数のインテリアショップのバイヤー

が来場し、契約にまで結び付いたという。デザインプロデューサーとして企画・全体統括を行った紫牟田伸子さんは「一つの企業ではできない流通経路をつくるのも私たちの役目です。きちんと情報発信をして、ものを販売していくというシステムをつくらないと、地場産業とデザイナーのつながりはなかなか続かないのではないのでしょうか」と話している。

会場/ふくい南青山291 (東京・南青山)
会期/2005年10月6日~10日

撮影/永井泰史